

〔問 1〕

次の（１）から（10）の林学に関する語句群の中から5つを選択し、その意味を簡潔に説明せよ。

- （１）森林環境譲与税
- （２）フォワーダ
- （３）階層構造
- （４）松くい虫被害
- （５）セルロースナノファイバー（CNF）
- （６）森林の防災機能
- （７）重力式治山ダム of 安定条件
- （８）航空レーザ計測
- （９）自然共生サイト
- （10）ダイヤモンドトレール

〔問2〕

次の（1）から（10）の問いに答えよ。

著作権保護のため、非公表（択一式 10問）
次ページ以降に例題を掲載しています。

〔問3〕

次の（１）から（３）の問いの中から１つを選択し、答えよ。

（１）近年、野生鳥獣による森林被害面積は減少傾向にはあるものの、森林被害は依然として深刻な状況にある。

令和３（2021）年度の野生鳥獣による森林被害面積は、全国で約 4,900ha となっており、このうちシカによる被害が約 7 割を占めている。

シカによる被害の内訳としては、食害による造林木の成長阻害や枯死、木材価値の低下のほか、下層植生の消失等による土壌流出などがある。

こうしたシカによる森林被害に対する「主な防除対策」以下の３項目の取り組みについて、800 字程度で説明せよ。

- ①個体数調整
- ②被害防護
- ③生息地の操作

（２）令和４（2022）年 12 月にカナダのモントリオールで開催された生物多様性条約第 15 回締約国会議（C O P 15）第二部で、令和 2（2020）年までの世界目標である愛知目標の後継として「昆明・モントリオール生物多様性枠組」（以下「新枠組」という。）が採択された。この新枠組を踏まえ、令和 5（2023）年 3 月に新たな生物多様性国家戦略である「生物多様性国家戦略 2023-2030」（以下、「新国家戦略」という。）が閣議決定された。

新枠組には 2030 年ミッションとして「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の考え方が取り入れられている。このネイチャーポジティブは、愛知目標をはじめとするこれまでの目標が目指してきた生物多様性の損失を止めることから一歩前進させ、損失を止めるだけでなく回復に転じさせるという強い決意を込めた考え方である。また、新国家戦略は「2030 年ネイチャーポジティブ」の実現を目指し、5 つの基本戦略を掲げている。

この 5 つの基本戦略を明記したうえで新国家戦略の概要について、800 字程度で説明せよ。

(3) 政府では、社会問題である花粉症への対策として「発生源対策」「飛散対策」「発症・曝露対策」に政府一体となって取り組むため、令和5年5月に「花粉症対策の全体像」を取りまとめた。

これを受け、林野庁では、スギ花粉の「発生源対策」として、スギ人工林の伐採・植替えを効率的・集中的に実施する施策を進めている。

林野庁が掲げるスギ花粉の「発生源対策」以下の4項目の取り組みについて、800字程度で説明せよ。

- ①スギ人工林の伐採・植替え等の加速化
- ②スギ材需要の拡大
- ③花粉の少ない苗木の生産拡大
- ④林業の生産性向上及び労働力の確保

以下の問題は例題です。（大阪府職員採用試験で実際に出題された問題とは限りません。）

例題1 次の記述 **a** ～ **c** は、森林の公益的機能を貨幣評価する方法についての記述である。各記述に該当するものの組合せとして妥当なのはどれか。

- a. 森林がもつ降雨の貯留機能をダムで果たすことを想定して、ダムの建設費や償却費から森林機能の価値を求めるなど、森林と同等の機能を提供する財を探し、その財の価格で森林の環境的機能の価値を評価する方法
- b. 主にレクリエーションや景観の評価に用いられる方法であり、対象地までの旅行費用や訪問率、旅行者数などからレクリエーションの需要関数を推定し、その消費者余剰も考慮して貨幣価値に換算し、対象地の評価額とする方法
- c. 例えば、ある河川の上流域の森林を伐採する場合に、環境の変化に対する受け入れ補償額あるいは環境の変化を起こさせないための支払い意志額を直接人々から聞き出し、その額を分析することにより、環境の価値を評価する方法

a	b	c
1. 仮想市場評価法（CVM）	代替法	トラベルコスト法
2. 仮想市場評価法（CVM）	トラベルコスト法	代替法
3. 代替法	仮想市場評価法（CVM）	トラベルコスト法
4. 代替法	トラベルコスト法	仮想市場評価法（CVM）
5. トラベルコスト法	仮想市場評価法（CVM）	代替法

【正答：4】

例題2 人工林の保育に関する次の記述のうち、妥当なのはどれか。

1. 一般に、植栽木の植栽密度が高いほど、下刈りを必要とする期間は長くなる。
2. 下刈りには全刈りと部分刈りがある。雑草木の一部を残す部分刈りには労力が軽減されるという長所があるが、植栽木が寒風害を受けやすくなるという短所もある。
3. つる切りは、有害なつる植物の成長が停止する冬に行うのが効果的である。
4. クズは、他のつる植物に比べて植栽木の樹幹部への食い込み被害を著しく与えるため、特に巻き付きの初期につる切りを行う必要がある。
5. 枝打ちは、無節の材を生産するのに効果があるとともに、スギノアカネトラカミキリのような枯枝から侵入する害虫の防除にも効果がある。

【正答：5】